

孕



はらませマスタ一っ!







「うっ！ぐっ！ひうっ！……  
かっ、からだ…がっ…  
いう「とを…うううう」」  
「こんな極上のキツマンを  
好き放題出来るなんて最高やっ  
ふんっ！ふんっ！ふんっ！」  
「命令に抗おうなんて無駄な事だ  
この俺三偉そうな態度をとった罰として  
そのオッサンの慰みモノになるんだなw」  
「きっ、さまっ、わ…妾を  
誰だどっ、うっ、ぐっ、うううう」」

！！！！

！！！！

スキ

スキ



「うっ、うっ、うっ……射精さ……」

「なっ、おっ、愚か者っ！ さっ、させめっ……それだけはさせめぞっ……」

「うっ、うっ、うっ……も……も……」

「うっ、うっ、うっ……本当に射精しおった……わ……妾に……この妾に穢れた子種を……」

ゲッ!

アッ!

アッ!

アッ!



「うっっくっくっ...はあっ、はあっ...  
ゆ...ゆるさぬ...ゆるさぬぞっ」

「はあ...えがった」

「くっくっくっ」

「いや〜いい種付けシヨーだったぞw  
これに懲りたら今後の身の振り方に  
気をつけるんだな」

「あ...ぞける...な...わ...妻が  
この程度でっ」

「おそっ」なくちゃw」

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ



「あつ！はっ！うああつ！  
きつ、貴様…っ、妾に…っ  
なっ、何をした…っ！」

「なに、只お前の感度を  
数百倍に増幅させただけだよw」

「そっ、そんな事のためにっ、  
れ、令呪を…っ、なんと…愚かな…っ！」

「ふん、まあ精々俺を愉ませてくれ  
オッサン頼んだぞ」

「よ、よくわからんがこんな上玉  
何回でもイけるわっ、ふんっ、ふんっ！」

「あああああああああつ！」

ぐわん

ぐわん



「うっ、まっ、また射精るっっ  
うっっっっっっっっ」

「おっ…るか…もの…っ…  
これ…以上は…っ…ゆ…ゆるを…っ  
あああああああっっっ」

「ま、まだまだ…っ…んっんっんっ」

「ま…た…っ、こんな…っ…  
あ…熱…っ…あっ、がっ、う…っ…  
んあああっっ」

「~~~~っW随分とまあ雌の声で  
鳴くようになったな  
これなら暫く楽しめそうだW」

Ww!

Ww!

はっ

Ww!

Ww!  
Ww!  
Ww!

Ww!

Ww!

Ww!  
Ww!  
Ww!

Ww!







「うっ、ぐっ、ううっ!!」  
ぜ…全然抵抗出来ない…っ  
あ…あなたっ、こんなことの為に  
令呪を…っ!!」

「ママが抵抗するから…っ  
僕は…こんなママが好きなの…っ!!」

「んっ、くっ、んうっ…!!」  
も、もう好きに…すれば…っ  
いいじゃない…っ、これくらっ…  
あ…っ、あたしは…っ!!」

「はあっ、はあっ、やさしいママ  
しゅきいっ…ふんっふんっふんっ…」

「あ…っ!!」

「あ…っ!!」

「あ…っ!!」

「あ…っ!!」

「あ…っ!!」

「あ…っ!!」



「はあっはあっ、で、射精るっ！  
ママのオマン」にザーメン射精るっ！」

「なっ！だっ、だめよっ！  
そっ、外にっ、外に  
出さないっ！」

「はあっはあっ……っ……い……っイグ……  
イグ……っ！」

「うっ！  
う……そ……っ、ほ……ほんとに入っ……  
あ……っ……あ……あああ……っ！」

ケ！！

ズン！

ズン

ズン

ズン



「…あ…は…あ…  
はあっ…はあっ…」

「はあっはあ…Mの  
腔内最高だったよ…」

「…それはよかったわね…  
そろそろ…離してくれど…  
…ありがたいのだけれど…」

「駄目だよ…っ  
僕はママにも気持ちよく  
なっしてほしいんだ…」

「…あなた…何を…」

ほー

ほー

M

M

M

M



「あっ…はっ…あっっ…  
やっっ、やめっっ…あああっっ！」

「ママ、ママ、ママっ…  
気持ちいいの僕、チンポ  
気持ちいい？」

「あっ、なた…っ、こんな事の  
ために…っ、令呪を…っ  
くっくっっっ！」

「ママのためなら令呪くらい…っ  
ほっっ、奥を「シン」でするのSunny」

「あああああっっっ…」

「はっ  
はっ  
はっ」

「はっ  
はっ  
はっ」

「はっ  
はっ  
はっ」

「はっ  
はっ  
はっ」

「はっ  
はっ  
はっ」

「はっ  
はっ  
はっ」

「はっ  
はっ  
はっ」



「うっ、ふっ、うっ...で、射精する...  
ま、またママの膣内に...」

「やっ、あっ、だ、ためえっ...  
い、う、今射精されたら...」

「はあはあ...うっ、うっ...  
り、うっ、うっ、うっ、うっ...

「あああああああ...  
だ...めえ...!!これ...!!  
頭...おかしく...な...」

うん  
うん  
うん  
うん

うん  
うん  
うん  
うん

うん  
うん  
うん  
うん

うん  
うん  
うん  
うん

うん  
うん  
うん  
うん

うん  
うん  
うん  
うん

うん



「つーっつーっ!!  
お..か..さん..っ?..  
い..たい..よ..っ?..  
」  
「くっつw大丈夫大丈夫っ  
おかし..さんが気持ち良くして  
あげるからもうちよっと  
我慢しようねっ」  
「う..ん..っ、わかった..よ..っ  
我慢..っ、する..ね..っ」



「っっ、はっ、あうっ……  
おか……さん……っ、んっ……」

「シヤックちゃんはいいい子だねえw  
どうっ？おか……さんのチンポは  
気持ちいいかな？」

「わ……かない……けっ……  
なんだが……声が……出ちゃ……っ……」

「ぐっっw素直だなあ  
我慢しないでもっつと声出して  
いいんだよっ、ほらっほらっ……」

「お……っ……っ……」

おっぱい

お尻

ON!

ON!

ON!

お

お

お



「田中さん、イクよジャンクちゃんさっさとっつー」

「で……る……っ……何が……」

「……の……っ……おが……さ……」

「……な……っ……れ……っ  
熱い……よ……っ……おが……さん……から……  
す……っ……熱い……のが……っ……」

ズンズン

ズンズン

ズンズン





「あ…っ、は…あ…っ…」

「お…か…さん…？」

「この白いの…なあ…」

「これはジャックちゃんが  
おか…さんになるために  
必要なもの…かな？」

「おか…さん…？」

「私達が…おか…さんになる…の…」

「…っ、嬉…っ、っ…」

「わかんない…けど…」

「この白いの…きらいじゃない…かも…」



「あっ…うっ…ああっ…」  
お…か…さ…ん…う…っ…」

「く…ふ…う…ジャックちゃんの  
気持ちいい声が溢れちゃってるよ…  
おか…さんのチンポそんなに  
気持ちいいのかな？」

「う…ん…う…う…おか…さんの…っ  
ちんぽ…っ、気持ちいいよ…っ…」

「素直ないい子はもつと  
気持ち良くしてあげるね…っ  
ぬっ…ふんっ…」

「……………」

あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ



「うっ、くっ、射精るっ  
射精るよジャックちゃんっ」

「うっ、んっ、ちよーだいっ  
おかーさんの熱いのっ、うっ、うっ、うっ」

「うっ、あ、あああっ  
きっ、たっ、どくどくっ、うっ、うっ、うっ  
これっ、すきっ、あっ、はっ、あああっ」

「MWAH」

「MWAH」

「GAG」

「MWAH」

「MWAH」

「MWAH」



「うっ……うっ……  
な……んで……トナカイさん……」  
「めん……」  
「ジャンヌが可愛すぎてっ  
俺もう我慢出来ないんだ……っ……」  
「しっかり……してください……っ  
こ……っ……こんなの……っ  
悪い子のする……っ……、ですよ……っ……」  
「めん……っ……めんね……っ……」  
「うっ……うっ……」

M

M

M

M

M

M



「あっ、はっ、ああっっ！  
とっ、トナカイさんははっ  
わるい、ひと、ですっっ！」

「ごめんねっ、お詫びに  
頑張っって気持ち良くするからっ  
ふんっ、ふんっ、ふんっっ！」

「ごっっっっ、こんなのっっ  
気持ち良くなんてっ  
なるわけっ、あうっっっっ！」

「っ、っめっっ、っ、っかなっ」  
「いっ、ちっ、ああああっっっ！」

「んっ」

「んっ」

「んっ」

「んっ」

「んっ」

「んっ」



「うっ、も、もっ射精そっ、っ！」

「…え…」

「…だ…だめですよトナカイさんっ!?

それだけは絶対駄目ですっ!」

「うっ、ごめんっ、っ!」

もう間に合わ…うっ、っ

ぐわっ、うっ、っ!」

「うっ! あっ、っ、…あっ、っ!

出されちゃってますっ、っ

わたし…今っ…トナカイさんに…っ!」

あーっ

ぐわっ

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ



「あ……あ……は……あ……つ  
あ……おなか……あ……熱……っ……」

「はあつはあつはあつ……  
ふう……っ、良かったよジャンヌ……」

「よ……よかったのは……  
トナカイさんだけです……っ  
私はとつてもつらかったんですよ……っ」

「……「めん……っ  
そんなにつらかったなんて……っ  
ど……どうしたら……  
そ……そうだ……っ……」

「……?……」

NA

NA

NA

ほ

ほ

NA



「あつ…はつ…あ…あつ…  
ば…ばかです…  
トナカイさんはつ、おばかさんです…」

「ごめんつ…こうすればジャンヌも  
気持ち良くなれると思って…」

「ごんなつ、事のために…  
また令呪を…  
信じられな…あつ…」

「一緒に気持ち良くなるら…  
ジャンヌつ、うっくうらつ…」

「あああああつ…」

「あつ…」

「はつ…」

「あつ…」

「あつ…」

「あつ…」

「あつ…」





「うっ、ぐっ…  
また…射精る…うっ、うっ…」

「や…あ…っ！  
だ…だめ…です…っ…  
い…ま…っ、出されちゃったら…っ…」

「も、もう…イ…クウッ…  
くっ、ぬっ、っ、っ…」

「あっ、はっ、あああああっ♡  
こ…れえっ…熱…くて…っ  
わたしも…っばかになっちゃっ…っ  
あああああっ！」

ON

ON

ON

ON

ON

ON

ON



「ぬっ、くっ、ふんっ、ふんっー」

「あ…は…あ…っ…はっ…っ」

「くっくっwオッサンも飽きねえなあ  
そんなにそいつが気に入ったんか」

「へw絶対に抵抗できない  
タダマンは貴重ですからねえw  
ぶっ壊れても使い続けますぜっ」

「俺にはもうぶっ壊れてる  
ようにしか見えんがね」

「まあ見ててくだとらよw」

「まあ見ててくだとらよw」

「まあ見ててくだとらよw」

「まあ見ててくだとらよw」

「まあ見ててくだとらよw」

「まあ見ててくだとらよw」

「まあ見ててくだとらよw」

「まあ見ててくだとらよw」

「まあ見ててくだとらよw」

「まあ見ててくだとらよw」

「まあ見ててくだとらよw」

「まあ見ててくだとらよw」

「まあ見ててくだとらよw」

「まあ見ててくだとらよw」

「まあ見ててくだとらよw」

「まあ見ててくだとらよw」

「まあ見ててくだとらよw」

「まあ見ててくだとらよw」

「まあ見ててくだとらよw」



「一発カマしてやれば……ぬんっ……」

「っっっ……」

「うっ、あっ、がっ、あっ、はあ……っ……」

「はれ……の通り……っ……ぬっ……っ……っ……っ……っ……」

「あっ、はっ、く……っ……」

「あああ……っ……」

「く……っ……面白れえもんだなオイ」

ズン!

ズン!

ズン!

は

あ

ズン!



「あ……あ……はっ……  
あ……はっ……はっ……はっ……」

「ふっ……っ  
しかしいいんですかい旦那？  
これ以上はマジでぶっ壊れますぜっ」

「かまわねえさ  
俺はコイツが音をあげて  
屈服するところが見たい  
だけだからな  
そうなたらそうなたで  
面白そうだw」

「そっ……っなら  
遠慮なく……」

あはっ

あはっ

はっ

あはっ

はっ

あはっ



「ふんっふんっふんっ〜  
ぬっぐっぬっぐんぬんぬん〜」  
「……………」  
「はっ、あっ、うあ……ッ！  
がっ、ああっ、ああっ！」  
「ほれほれっ、まだまだ  
射精るからっっかり  
受け止めるよっっ！」  
「……………っっっっっっっっっっっっ  
がっ……あっ……あああああ……」  
「くっっwいい反応しやがるっw  
これならまだまだ愉しめそうだw」

感じる

感じる

感じる

感じる

感じる



「ママの胸内が良すぎ〜」

「男の子ならもっともっちはよ〜」

「ママの胸内が良すぎ〜」

「男の子ならもっともっちはよ〜」

あはっ

おはっ

あはっ

あはっ

あはっ

あはっ

あはっ













「そ、そろそろ射精る...  
射精るよジャックちゃん...」  
「う...ん...う...ん...  
だして...う...おか...さん...」  
「め...ん...め...ん...  
イク...」  
「~~~~~」  
き...た...う...おか...さんのせ...し...  
あ...は...あ...あ...  
熱いの...う...たくさん...」



「あーはあー  
はあつはあつはあつはあつ」  
「あーおかしさんのせーしー  
こんなに溢れてきちゃった  
もったいない」  
「あーも良かったよジャンクちゃん」  
「あーなならもっ一回  
するから」  
「あー」

あー

あー

あー



「あっ... はっ... あっ...」

「す... す... す... おかーな... おか... 膣内が締まっ... 搾り取られ...」

「あっ、はっ、あっ！」「これ... すき... あたま...」

あーっ！はっ！あっ！

あーっ！はっ！あっ！

あーっ！はっ！あっ！



「あつ、はつ、あつ……！  
と……ナカイ……さん……  
はげ……し……！……」

「めん……っ、ジャンヌ……っ  
腰……止まらな……う……う……！……」

「っ、あつ、ん……っ……っ  
仕方ない……ひと……っ  
です……ね……っ……ああ……っ……」

ouch

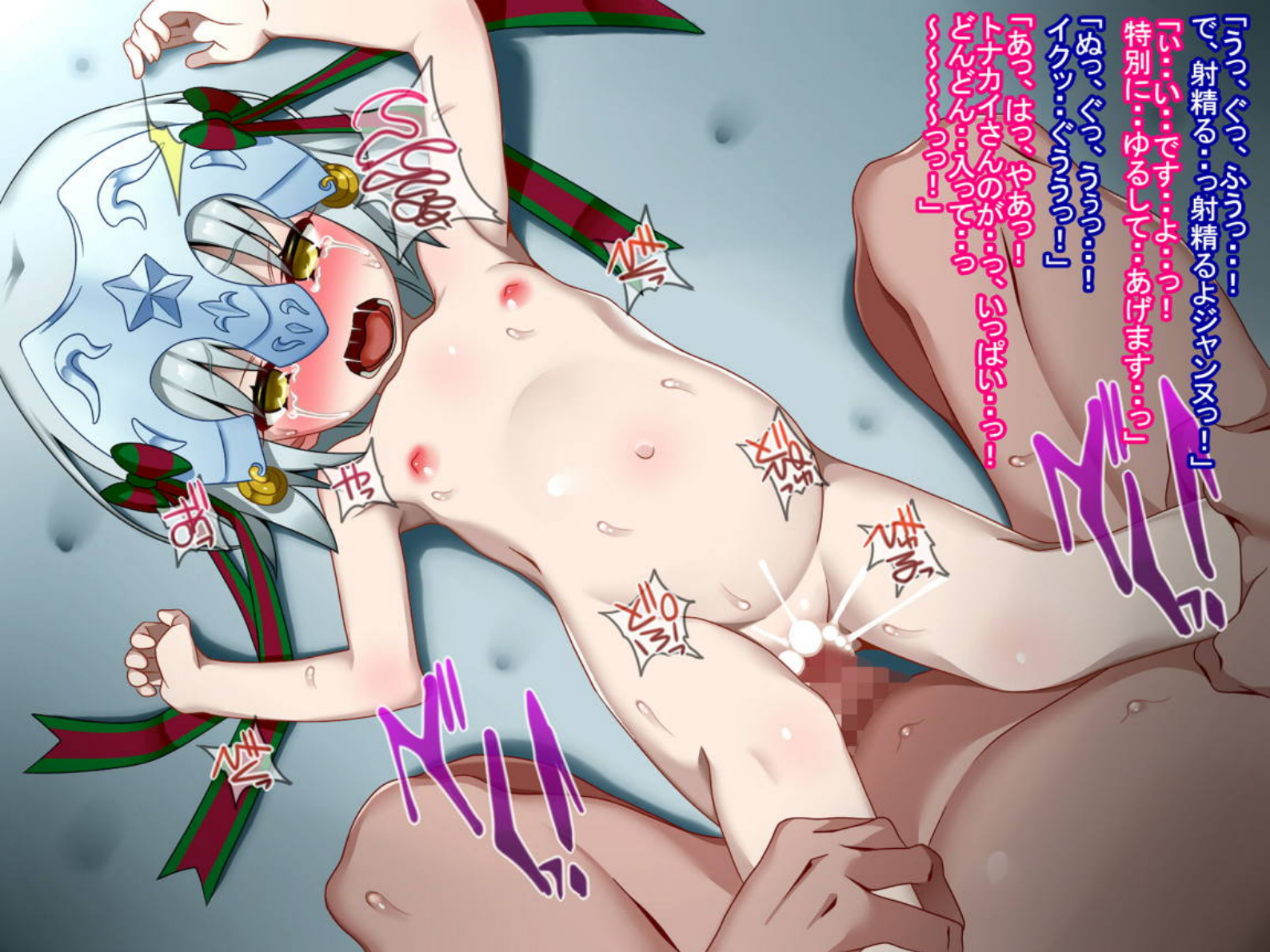
ouch

ouch

ouch

ouch

ouch



「うっ、ぐっ、ぐっ……」  
で、射精る……射精るよ……」  
「……い……です……よ……」  
特別に……ゆるして……あげます……」  
「ぬっ、ぐっ、ぐっ……」  
イク……ぐんぐん……」  
「あっ、はっ、やあっ……」  
トナカイさんが……いっばい……」  
「……い……」

M

M

痛い

痛い

痛い

痛い

痛い

痛い

痛い

痛い



「はぁっ…はぁっ…はぁっ…はぁっ…  
うっ…ぶうっ…」  
「あ…は…あ…あ…あ…っ…  
はぁっ…はぁっ…だ…  
出しすぎ…です…っ…」  
「いっせ…っ」  
「…ほんとうに…えっちな  
トナカイさんです…っ…  
そんなに焦らなくても…  
私なら…っ」  
「…あ…っ♡」

あ

あ

あ

あ

あ





「はぁっ、はぁっ、はぁっ、はぁっ……  
イクっ、イクよジャンヌ……」

「あっ、はっ、あっ……  
きて……トナカイさんの……  
全部……私の中に……全部……」

「でっ、射精る……  
うっ、ぐっ、うっ……」

「あああぁっ♡  
き、きました……トナカイさんの……  
どくどくっ……あっ♡あっ♡あぁっ♡  
~~~~~♡♡♡」

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡

あぁっ♡